

# 令和3年度 事業報告書

- ◇ はじめに . . . P 1
- ◇ 子供の家 . . . P 2～5
- ◇ 愛童園 . . . P 6～9
- ◇ ちぐさ . . . P 10～13
- ◇ あい . . . P 13～15
- ◇ 丸の内保育園 . . . P 16～19
- ◇ 三里保育園 . . . P 20～23

## － はじめに －

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各施設では、各施設内で発生した感染者（全施設で職員16名、入所児童及び入園児26名）や濃厚接触者の対応に追われたほか、計画していた事業についても中止や見直しが相次いだ。こうした中、実施可能な事業については、感染防止を徹底しながら積極的に取り組み、事務局として開催の準備を進めてきた中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会は、同研修会初のオンライン形式にて実施した。

新型コロナウイルス感染防止対策については、引き続き、日々の検温や手洗い消毒、マスクの着用等の実施はもとより、3密を避ける行動に意識して取り組むとともに、感染状況に応じて感染拡大地域への往来の制約などを行ったほか、国の補助金等を活用して、感染を防止するための衛生用品や備品等を購入するなどさらなる環境改善を図った。

愛童園では、小規模で家庭的な養育環境を備えた施設への移行を目指して、施設近隣の職員宿舎を分園型小規模グループケア施設に改修する工事を行い、8月からは男子児童が同施設での生活を開始した。また、これに引き続き、本館の改修工事も実施し、12月には本館施設においても小規模な養育環境が整った。

三里保育園では、保護者の利便性の向上や職員の業務の効率化を図るため、園児の登降園を管理するシステムや緊急情報等を保護者にプッシュ通知が可能な連絡システム等の導入を決め、2月からの試験稼働を経て、令和4年4月から本稼働を開始した。

近年、児童養護、母子生活支援施設、保育職場は厳しい雇用環境が続いており、人材の確保と育成は大きな課題となっている。法人情報については、前年度にリニューアルしたホームページを活用し発信に努めたほか、コロナ禍で集合研修の中止が多くなる中、関係機関主催のオンライン研修などに積極的に参加させ、職員の意識啓発、専門性の向上やステップアップのための支援に継続して取り組んだ。また、新たな人材として、職員採用試験を秋、冬に実施し、子供の家5名、愛童園2名、ちぐさ1名を正職員として採用した。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、児童憲章や児童福祉法等の理念をふまえ、令和3年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んだ。

昭和24年の開園以来70年余りが経過した。この間の子どもを取り巻く環境は大きく変化をし、それにともない入所理由も変わってきた。開園後に子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,033名に及んでいる。

平成28年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者をより明確に児童と位置付けるとともに、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家では児童福祉法や子どもの権利条約の理念のもと、平成28年12月に策定した子供の家の運営理念、運営目標に基づき、児童の最善の利益のために、養育及び自立支援に取り組んできた。

## ◎令和3年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

### (1) 児童の権利擁護

- ① 施設内研修を行うことで職員間の意思の共有を図り、養育の質の向上に努めた。  
また、専門職が参加した支援会等を積極的に行い、措置児童の権利擁護について確認し、自立に向け協議を重ねた。
- ② 意見箱を設置し、声の把握に努めた。また全児童を対象にヒアリングを行い、困りごとを把握し適宜対応することで、入所児童の生活の質の向上に繋げた。

### (2) 児童の養育・支援

- ① 心理療法担当職員・家庭的支援専門職員・個別対応職員・自立支援担当職員等の専門職を配置し、それぞれが連携し各児童に応じた専門的な支援を行った。
- ② 看護師・栄養士を中心に、新型コロナウイルス感染対策を徹底して行い、児童が安心して生活を送ることができるよう環境整備に努めた。  
※新型コロナの感染防止に努めたが、職員、児童が感染することとなった。

#### ◆医療的ケア

- 医療的ケア対象児童数 23名
- 全児童延べ受診者数 963名
- 主な医療機関 医療センター・高知大附属病院・愛宕病院  
療育センター・近森病院・細木病院

#### ◆心理療法

- 心理療法対象児童数 18名
- 年間延べ実施日数 260日
- 1日当たり平均実施時間 1時間

#### ◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応対象児童数 7名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆中学・高校等を卒業した者の進路状況（令和3年度）

進路	進学先		就職先	
		高校		県内就職
	太平洋学園高等学校	1名	量販店	1名
	高知学芸高校	1名	建設会社	1名
	専門学校		県外就職	
	龍馬看護ふくし専門学校	1名	大手外食チェーン	1名

（3）家庭支援と自立支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員等2名を家庭支援専門相談員として配置し体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し家庭支援に取り組んだ。
- ② 児童と家庭の関係再構築のために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所とも連携しながら積極的に促進した。

（4）事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアルを随時見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波を想定し、様々な形で避難訓練や消火訓練を実施した。
- ② 備蓄食料等の点検を随時行うとともに、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域活動に参加をし地域との関係を深めた。
- ③ BCP（事業継続計画）を策定し、初動対応や重要業務の役割分担等を明確にし、事前対策・危機管理に努めた。

（5）家庭的養育の推進

- ① より家庭的な養育を目指し、小規模グループケアを6ブロックとするとともに、各ブロックに専任職員を3名配置し、地域分散化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

（6）関係機関連携と地域支援

- ① 地域の地縁組織や関係機関との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 9自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを行った。

（7）職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修に積極的に職員を参加させ、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員会、ケース検討会等の各種会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営の向上に努めた。

◆各種研修会等への参加状況

○全養協関係	2回 / 4名	○中四国養協関係	- / -
○県養協関係	2回 / 7名	○全社協関係	- / -
○各種専門研修	2回 / 4名	○県社協関係	- / -
○法人内研修	2回 / 71名	○その他	2回 / 3名

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
定員（暫定）	70名 (54名)	70名 (52名)	70名 (51名)	70名 (53名)	70名 (52名)
在籍児童数	38名	47名	47名	44名	41名
職員数	40名	38名	39名	38名	38名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和3年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	45	46	45	45	45	45	44	44	44	44	43	43
入所	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
退所	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	2

◆学年別児童数

令和3年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未 満	3歳 以 上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	7	4	1	0	1	0	1	3	3	1	2	3	3	0	29
女	0	1	0	0	2	1	0	3	1	1	1	1	1	0	0	12
計	0	8	4	1	2	2	0	4	4	4	2	3	4	3	0	41

◆入所主訴理由別児童数

令和3年3月31日現在

入所理由	人 数	構 成 比
養育困難	22人	54%
身体的虐待	3人	7%
心理的虐待	5人	12%
性的虐待	0人	0%
ネグレクト	11人	27%
合 計	41人	100%

- ◆新型コロナウイルスの影響により令和3年度の実習受入れは、龍馬ふくし専門学校、高知学園短大、神戸医療福祉大学の3養成学校にとどまった。

- ◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和3年度	2名	2名	205日
令和2年度	5名	5名	467日
令和元年度	5名	5名	337日

- ◆子育て支援短期利用事業（契約先：高知市・南国市・安芸市・土佐市・室戸市・いの町  
佐川町・田野町・日高村）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和3年度	2名	3名	5日
令和2年度	5名	6名	30日
令和元年度	5名	7名	96日

- ◆令和3年度主要な年間行事

- 4月 小・中学校家庭訪問
- 5月 子どもの日バイキング（各ブロックで対応）
- 6月 輪抜け祭
- 7月 浦戸湾のんびりクルーズ招待
- 8月 ぶどう狩り（コロナにより寄贈に変更）
- 9月 内科検診
- 10月 インフルエンザ予防接種（1回目）
- 11月 インフルエンザ予防接種（2回目）、中央ライオンズみかん狩り招待
- 12月 市長サンタ来園、クリスマスバイキング（各ブロックで対応）
- 4/1月 正月・新年夕食会（各ブロックで対応）、日赤赤野奉仕団来園
- 3月 退園祝い外食
- 通年 「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕(毎月第4月曜日)
- 高知FD試合招待、子ども劇場招待、その他の招待行事
- ※宿泊キャンプや川遊び等、新型コロナウイルス感染症のため中止とした行事多数

開園以来60年が経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は329名を数える。

近年、子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化している。特に親の離婚、貧困や子どもの発達障害などを背景として、個々の児童の特性に配慮した細やかなケアが求められる入園児が多くなっており、職員には高い専門性とケアワークが求められている。また、国の「新しい社会的養育ビジョン」を受けた施設の小規模化、高機能化、多機能化への取り組みも喫緊の課題となっている。加えて、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への感染予防を踏まえた施設運営が求められることとなった。

このような状況のなか、愛童園では、遅れていた小規模化を進めるための施設改修工事を実施するとともに、児童の心身の健やかな成長と社会的な自立に向け、関係機関や地域社会と連携を図りながら次のとおり取り組みを進めた。

### ◎令和3年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

#### (1) 児童の権利擁護

- ① コロナ禍で、各種行事の中止が相次ぐなか、Web研修など職務に影響のない範囲で研修に参加させるなど、人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたりるとともに、児童の意見を聞いた上でのルール作りや自立支援計画の作成、意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

#### (2) 児童の養育・支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、発達障害や知的障害のある児童に対し、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、児童相談所や学校、医療機関等と連携した計画的な支援に取り組んだ。
- ② 日常的な生活援助と併せて、学習の定着を図るため宿題等の支援を行うとともに学習ボランティアの受け入れも行った。また、児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう学校等と連携し支援を行った。
- ③ 自立生活が安定していない卒園生への助言、見守り支援を継続して実施した。

#### ◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 11名
- 個別対応年間実施日数 24日
- 1日当たり平均実施時間 30分
- 支援会での情報共有、心理担当職員との連携及び職員会での連絡

児童	区分	性別	進学	就職	その他	進路等の状況
1	中学	男	○			私立高校通信課程
2	高校	男			○	グループホームを活用し、就労に向けた支援を継続中

◆令和4年3月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

### (3) 家庭支援の強化

- ① 児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所と調整し、コロナ禍のなか可能な範囲で実施した。
- ② 児童相談所や家族の居住する市町村とのサポートケアなどを踏まえ、家庭支援専門相談員を窓口とした家族への働きかけや家族からの相談を受けるなど、児童と家庭との関係調整を図った。

### (4) 事故防止と安全対策

- ① 事故防止マニュアル、事故事件等対応マニュアルに基づいて対応し、ノロウイルス感染症等の流行期には予防措置を徹底した。また、新型コロナウイルスへの感染予防のため、手洗い、咳エチケットの徹底等に取り組んだ。
- ② 防災対策マニュアルに基づき消火訓練、避難訓練を定期的実施した。
- ③ 毎職員会において、危険な箇所等の確認を行うとともに、交通安全についても意識の徹底を図った。

### (5) 社会的養育の推進

- ① 家庭的養護の推進には、職員による養育の質の向上が不可欠であり、分園型施設の運用を通じて、家庭的養育のあり方について理解を深めた。
- ② 「愛童園社会的養育推進計画」に基づき、8月から園舎近隣にある職員宿舎を改修した分園型小規模グループケア、2ユニットの運用を開始するとともに、本館のユニット化改修工事も11月に完了し、施設の小規模化の取組みはほぼ達成した。
- ③ 家庭との連絡がほとんどない児童に対して里親委託の検討やフレンドシップファミリーの活用を行った。また、里親関係の各種会合、研修会に参加するとともに、関係機関と連携のもと里親実習生を受け入れ、里親育成にも努めた。

### (6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、見守りの対象となる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 学校との定期的な支援会の実施や児童相談所との連携のもと、児童の支援状況や家庭も含めての情報の共有に努めた。また、一時保護や子育て短期支援事業（ショートステイ）の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用がほとんどなかった。

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和3年度	1名	1名	2日
令和2年度	3名	3名	46日
令和元年度	3名	5名	158日

◆子育て短期支援事業（受託先：香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和3年度	0名	0名	0日
令和2年度	2名	2名	8日
令和元年度	1名	1名	7日

（7）職員の資質と施設運営の向上

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、Web研修など職務に影響のない範囲で研修の機会を確保し職員のスキルアップを図った。
- ② 園内研修として、弁護士を講師に招き、児童養護施設において留意すべき子どもの権利擁護についての講演を受け、日々の処遇の向上を図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 4回／7名    ○中四国養協関係 1回／2名
- 県養協関係 2回／9名    ○各種専門研修 4回／9名
- その他 2回／2名

また、全員参加の園内研修(ノロウイルス対策、権利擁護)のほか、消防署を招いての避難・消火訓練、施設実習終了後の実習生反省会などを実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
定員（暫定）	30名	30名 (29名)	30名 (28名)	25名	25名
在籍児童数	22名	20名	21名	20名	25名
職員数	19名	19名	20名	22名	23名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和3年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	22	22	22	22	22	22	22	23	25	25	25
入所	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1日付入所者は、当月の人数に含めている

◆学年別児童数

令和4年3月31日現在

就学前		小学校						中学校			高校			その他	計	
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年			3年
男	0	0	3	0	0	1	1	0	0	2	1	2	1	1	0	12
女	0	4	1	2	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	13
計	0	4	4	2	1	3	3	0	0	2	1	3	1	1	0	25

◆入所主訴理由別児童数

令和4年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	1	4.0%	虐待	6 (3)	24.0%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	8.0%
父母の拘禁	2	8.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	3	12.0%	措置変更	7	28.0%
父母の養育困難	4 (4)	16.0%	その他	0	0.0%
			合計	25	100.0%

( ) 内は、措置変更児の当初措置理由

◆令和3年度主要な行事

- 4月 新年度編成
- 5月 児相サポートケア、施設実習(龍馬学園)、
- 6月 第1回地域支援者会議、苦情解決第三者委員報告会
- 7月 七夕祭り、コロナワクチン職域接種
- 8月 分園ユニット開始、キャンプ(中止)、消防訓練
- 9月
- 10月 第2回地域支援者会議、中学校体育祭、小学校運動会、施設実習(高知学園短大)、ハロウィン
- 11月 園内研修(ノロウイルス対策)、児相サポートケア、本館ユニット化改修工事完了
- 12月 開園記念日、クリスマス会、餅つき
- 04/1月 お正月、消防訓練
- 2月 節分豆まき、児相サポートケア、第3回地域支援者会議施設実習(高知福祉専門学校 延期)、
- 3月 ひな祭り、園内研修(権利擁護)、香南市家庭交流事業

※ 新型コロナウイルス感染症防止のため、事業の中止・縮小を余儀なくされた。

## 母子生活支援施設 ちぐさ

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」（定員5世帯）を開設した。

その後、経営組織改組により社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称の変更も行った。

平成10年には現在地に移転新築し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてきた。

百石町に移転以来令和4年3月末までに198世帯が入所し、178世帯が自立している。これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めていく。

### ◎令和3年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

#### (1) 母と子の権利と尊厳の擁護

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の施設として「ちぐさ理念」に掲げ、それぞれの生活課題に向き合い、安全な居場所の提供と自立に向けた考えを尊重しその歩みをともした。

#### (2) 利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援の展開

年度当初に22世帯の支援計画書を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し、随時見直しながら対応に努めた。

#### (3) ハローワーク等就労支援機関と連携し、経済的自立への道筋をつける。

延べ求職者は6名で、求人情報の提供やハローワークへの同行支援（3名）を行い、3名が就職に至った。

#### (4) 子供の育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行う。

延べ53名の幼児の預かり保育を実施した（コロナ感染拡大により、保育は極力母親で完結することとしたため預かり保育数は令和2年度以降減少している）。

#### (5) 母親に対して基本的な生活習慣の支援

育児はもとより掃除、食事、入浴に関して未熟な母親が多く、その都度職員が部屋に入り、手伝い・助言を行った。

#### (6) DV被害からの回避・回復のため、広域利用や一時保護委託の受入を行う。

令和3年度は3世帯の広域利用（県・市外）があった。また平成19年度から高知県女性相談支援センターと一時保護委託契約を結んでおり、1世帯を22日間受け入れた。

#### (7) 地域ニーズに対応するため、ショートステイ・トワイライトステイを実施する。

問い合わせ等はあったものの、令和3年度は受け入れがなかった。

(8) 防災・減災対策の実施

原則として、毎月1回避難訓練を実施。3月には、防災訓練として高知市防災対策部から講師を招き、南海トラフ地震における被害想定等に関する講義を受けるとともに、火災訓練として、避難訓練及び消火器の操作訓練を行った。新型コロナウイルス感染予防のため、例年実施している消防署員による消火訓練、非常食の試食会等は中止とした。

(9) 職員の資質と施設運営の向上

新型コロナ感染対策のため、昨年度に引き続き集合研修は中止が多く、開催される場合でもオンラインによる研修が大半となったが、関係機関の主催する各種研修等に参加し、それぞれのスキルアップに努めた（15回のべ19名）。

また、「中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会」は本県母子生活支援施設協議会が事務局となり、50名の参加を得てオンラインにより実施した。

(10) 特定妊婦の積極的な受け入れ

県からの要請により1名の特定妊婦が入所となった。本人の希望により、出産3週間後の入所となったが、入所後は保健所等との連携を図りながら母子の支援に努めた。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
定数（暫定）	27世帯	27世帯 (26)	27世帯 (22)	27世帯 (22)	27世帯 (24)
入所世帯数	15世帯	17世帯	22世帯	22世帯	22世帯
入所人数	38名	43名	55名	55名	53名
職員数	10名	10名	10名	11名	12名

※職員数：契約職員及びパート職員を含む

◆令和3年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	21	21	21	23	24	23	23	23	24	24	23
入所	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	0	0
退所	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1

◆令和4年3月31日現在の入所世帯状況（定員27世帯 暫定24世帯）

入	入所者数	22世帯53名（内児童数31名）				
所	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒ 7		県内市町村 ⇒ 14		県 外 ⇒ 1
世	主たる入所理由	D V ⇒ 5		住居の確保 ⇒ 5		養育支援 ⇒ 12

帯 の 状 況	在所要年数	5年以上／7	3～5年／3	1～3年／9	1年未満／3	
	就労者の状況	常雇 4名		パート 6名	無職 12名	
	母親の年齢構成	10代/1名	20代/4名	30代/10名	40代/5名	50代/2名
	子どもの年齢構成	乳幼児 10名	小学 10名	中学 7名	高校 4名	大学 0名

◆令和3年度の入所者の状況

世帯	職業	入所理由	措置元	世帯構成
1	無職	離婚により住居なし	市内	2名
2	無職	DVにより県外から転入	県外	4名
3	無職	DV及び夫の子への虐待により市外から転入	市外	4名
4	無職	DVにより市外から転入	市外	3名
5	無職	特定妊婦。出産後の就労を求め市外から転入	市外	2名
6	農業	夫の子への虐待により市外から転入	市外	4名

◆令和3年度退所者の状況

世帯	職業	退所理由	在所要年数	世帯構成
1	店員	措置元の方針により市内へ転出	6年2か月	2名
2	無職	子の通学のため市外に転出	1か月	3名
3	無職	夫からの接触を回避するため市外に転出	2年3か月	3名
4	無職	子の通学のため市外に転出	2か月	4名
5	農業	入所前住居から夫が転出したため前住居に転出	2か月	4名
6	介護	措置元の方針により市内へ転出	2年1か月	3名

◆各種研修会等への参加状況（15回／のべ19名）

- 講師等養成研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名
- 施設心理職員合同研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 高知県福祉事業財団事例研修会 2回・・・・・・・・・・・・ 2名
- 母子生活支援施設指導者研修・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 第64回全国母子生活支援施設研究大会・・・・・・・・・・・・ 1名
- 虐待の世代間伝達を断つために私たちができること・・・・ 1名
- 社会のための心理学シリーズ「がん医療への心理学的貢献」1名
- 社会的養護を担う児童福祉施設長研修会・・・・・・・・・・・・ 1名
- 福祉職場の中堅職員ファーストステップ研修・・・・・・・・ 1名
- 高知市子育て支援研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名

- 令和3年度社会福祉法人会計実務者決算講座・・・・・・・・ 1名
- DV加害者プログラム体験ワークショップ・・・・・・・・ 1名
- ファミリーソーシャルワーク研修会・・・・・・・・ 1名
- 第39回中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会・・ 3名

◆主な年間行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、入所者及び職員の行動が著しく制限され、多くの行事の縮小・中止を余儀なくされたが、感染防止の徹底を行いながら以下の行事を実施した。

- 4月 母親健康診断（1回目）
- 5月 お母さんと遊ぼう  
こいのぼり昼食会  
ベリーダンスエクササイズ
- 7月 浴衣着付け教室
- 8月 親子行事（乳児、幼児向け）  
学童レク活動（実習生主催）
- 10月 母親健康診断（2回目）
- 11月 みかん狩り  
親子行事
- 12月 クリスマス会  
餅つき
- 2月 節分・豆まき

子育て支援センター あ い

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんに、親子で楽しく遊べる場所を提供してきた。また、利用者同士の交流の仲立ちをし、様々な情報提供や育児相談を受け、育児講座を企画し、地域の子育てを応援してきた。

毎月発行している子育て通信「あい」を利用者に配布し、行事内容等を周知するとともに、高知市の子ども育成課・保育幼稚園課・南部健康福祉センター・潮江図書館・おもちゃ図書館・ソレ等にも送付し情報提供を行った。同様にポスターを毎月、毎日屋・マルナカ・macに掲示し、また、送付されてきた市や県の情報や子育てサークルの講座やイベント情報を子育て支援のために随時提供してきた。

県のプレマ net やほっとこうちにも毎月掲載を依頼し広く広報に努めるとともに、ホームページにも情報を公開し、手づくりの写真や講座等の内容を提供した。

年度末(2月)には、高知市からタブレットの配布があり、他の支援センターとZOOMで交流を行ったほか、インスタグラムも開始し利用者への情報提供を強化した。

令和3年度もまん延防止等措置対応のため、子ども育成課の指示で8・9月及び

2・3月の2回にわたり遊び場提供が休止となった。2回目の休止期間中には、電話で利用者と積極的に情報交換を行い、手作りキットなどを配布した。休止解除後は、利用者に安心して利用してもらえるよう保育室やテラス、洗面所の清掃、消毒おもちゃ等の消毒に努め、検温・手洗い等をきちんとしてもらった。

令和3年度から、「妊婦さんいらっしやい」という企画を年間4回予定し、妊婦への声かけもすすめてきたが、コロナ禍で2度中止になった。切れ目のない子育て支援の観点から次年度も引き続き企画していく。開所日は、前年度より少なく登録者も減少しているが、利用者のべ人数が微増したのは、利用の仕方が「毎日」、「週3・4回」という方が多かったからだと思われる。

◆職員数 2名(主任指導員及び指導員)

◆令和3年度実績

令和3年度の登録児童数	89名	(令和2年度 111名)
① 育児相談	213件	(参考：令和2年度 203件・令和元年度 361件・平成30年度 263件)
② 育児講座	実施回数63回	(参加延べ人数562名 大人293名 子ども269名)
③ 遊び場提供	217日	
●令和3年度施設利用状況	延べ人数2,586名	(大人1,254名 子ども1,332名)
参考 令和2年度	延べ人数2,279名	(大人1,128名 子ども1,151名)
参考 令和元年度	延べ人数4,830名	(大人2,425名 子ども2,405名) ※午前午後と来た場合毎回カウント
参考 平成30年度	延べ人数5,653名	(大人2,540名 子ども3,113名) ※午前午後と来た場合毎回カウント

◆令和3年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	お花遊び・よちよちランド みんなで遊ぼう 手づくり(フェルトこいのぼり3日間)
5月	お花遊び・よちよちランド・離乳食教室 妊婦さんいらっしやい・手づくり(ぴよんぴよんガエル3日間)
6月	お花遊び・よちよちランド・育児相談助産師 子どもの歯のはなし 手づくり(ゆらゆらアンパンマン3日間)

7月	お花遊び・よちよちランド ピアノの演奏を聴こう(夏の歌) 手づくり(キーホルダー3日間)
8月	よちよちランド 妊婦さんいらっしやい(中止) 手づくり(キラキラペット3日間)
9月	お花遊び(中止)・よちよちランド(中止) 育児相談保健師(中止)幼児食の話(延期) 手づくり(敬老の日ハガキ個々に行う)
10月	お花遊び(こけ玉)・よちよちランド・育児相談助産師 幼児食の話・ふれあい遊び(がたごとバスにのって) 手づくり(チェーン落とし3日間)
11月	お花遊び・よちよちランド・離乳食教室・育児相談歯科衛生士 妊婦さんいらっしやい 手づくり(ペーパーウエイト3日間)
12月	お花遊び(スワッグ)・よちよちランド プチクリスマス会 手づくり(まつぼっくりツリー2日間)
1月	お花遊び・よちよちランド 陶芸教室 手づくり(折り紙コマ3日間)
2月	お花遊び(中止)・よちよちランド 育児相談保健師(中止)・妊婦さんいらっしやい(中止) 手づくり(おひな様)(中止)・キット作成配布)
3月	お花遊び・よちよちランド みんなで遊ぼう 手づくり(パズル2日間)

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、引き続き“3密”を意識した日々を送ることとなりました。年間を通して感染拡大防止に重点を置いた取り組みを行い、行事の内容や保護者の参加の仕方についても見直しをし、保育を進めてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化しており、保護者支援がなお一層重要とされています。家庭や地域、専門機関との連携を図りながら、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、保護者に対する適切な支援を行い、安心して利用してもらえるよう自園の保育を発信し、信頼関係を築いていくことを大切に取り組んでいます。

子ども子育て支援新制度が進められる中、子どもの連続した発達の保障、主体性を大切にしたい質の高い保育や専門性の向上を目指しています。

#### ◎令和3年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

##### (1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にしたい保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかかわりに留意し、子どもの姿をありのまま受けとめ、子どもが安心して自分の思いを出せるような養護、子どもの主体性を大切にしたい教育の安定的な提供に努めた。
- ② 家庭との連携を大切にし、子ども達の現状をしっかりと把握して、安心して園生活を送れるようなかかわりを持ち、職員間の共通理解のもと適切な支援を行った。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手洗い・うがい・手指消毒をこまめに行い、今年2月からは厚生労働省の推奨もあり、室内の活動の際には3歳児以上の子どもには無理のない範囲でマスクの着用を呼び掛けた。なるべく園児同士は普段と変わらない他児との交流を行えるよう、保育中の換気に十分配慮し、人が触れる場所の消毒を行い感染予防に努めている。

##### (2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児をはじめ、途中入所を多く受け入れた。
- ② 発達の気になる子ども、貧困世帯など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえて柔軟に対応した。

##### (3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実際

- ① コロナ禍のため、地域の高齢者宅への訪問は実施しなかったが、デイサービス2か所には訪問し、園児が作ったプレゼントやメッセージを届け、室内外に分かれたが距離をとって交流し、人をいたわる優しい心を育むことができた。
- ② 地域の小学生と年長児の直接的な交流が今年も実施できていない。就学時健康診断や一日入学(実施した小学校は)で小学校に行く機会があり、中には在校生と関わり

を持った子もいた。小学校から、一日の生活の流れを紹介する DVD が送られ、映像を見ながら小学校に向けての期待を持つことはできた。

- ③ 地域の敬老会に年長児が招かれていたが、コロナ禍のため実施されなかった。

#### (4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密に園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。NPO カンガルーの会の方に来園していただき、園児のケースについて職員間で連携し、共有する機会を持った。
- ② 家庭環境に対する配慮、専門機関との連携等、保育内容の充実を図るとともに、保護者と保健師、保育士による個別面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

#### (5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① コロナ禍のため研修計画が大幅に変更となったが、会場で実施する研修については参加し、その他 zoom 研修、オンデマンド研修等活用し、可能な範囲で参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 保育雑誌の指導計画について他園とともに意見交換し学びを深めたり、高知県保育士会の研究チームとして参加し、全国大会に向けた研究の発表に携わった。
- ③ 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。

#### (6) 保護者の就労支援の為、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭対象に平日午後 7 時まで、土曜日は午後 5 時 30 分までの保育を実施した。

#### (7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災・防犯活動への積極的な取り組み

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつ、マニュアルや対応についての見直しを行った。
- ③ 門扉、保育室への防犯錠等の設置

#### (8) 近隣に居住する家庭の少ない園ではあるが、今後の地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、コロナ禍ではあるが、感染予防をしてもらったうえで見学を受け入れ、ふれあう機会は持てなかったが、短い時間で様子を見てもらうようにした。今年は外部との接触を控えることから、バザーなどの PTA 活動も行っていないため、地域と一体となった支援には十分結びついていないが、今後も地域の児童民生員さんとも連携し、園児確保や開かれた園づくりを考えていきたい。

令和4年3月31日現在

定員	110名
職員数	31名（正職12名、契約職員12名、パート7名）
	嘱託医 2名 内訳(歯科医1名・内科医1名)
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童名49名、居残り児童87名
土曜日の午後保育	登録園児数43名、平均利用人数22名

※ 契約保育士10名中、特別支援担当保育士2名を含む。パート職員7名のうち、2名は特別支援加配保育士として時間を分けてあたり、他の職員は、延長保育時間対応（3時間～6時間パート）。

◆在籍児童数

令和4年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	16	16	20	21	17	12	102

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
3歳児以上	61名	61名	54名	49名	50名
3歳児未満	59名	45名	51名	48名	48名
計	120名	106名	105名	97名	98名

◆令和3年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	92	92	92	94	98	99	99	99	102	102	102	102
入所	0	1	0	2	4	1	0	0	3	0	0	0
退所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・・・・・5名
- 食育・アレルギー関係研修・・・・・・2名
- 保育士研修・・・・・・・・・・・・・・20名（高知県保育士会）
- 保育業務に関する研修・・・・・・・・・・24名（zoom、オンデマンド、DVD研修含む）  
（特別支援保育研修、安全教育研修、保育の日、親育ち研修）
- カンガルーの会(職員会/年4回)・78名

◆令和3年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会（幼児組）、個別懇談、  
高知市交通安全教室（3・4・5歳児）
- 5月 集会、わんぱくこうちに行く（5歳児）、全園児健診、検尿（4・5歳児）
- 6月 歯科検診、プール開き
- 7月 七夕まつり、夏まつりごっこ、夕涼み会（年長児のみ）、夏の水遊び
- 8月 プールおさめ、大掃除
- 9月 通報総合避難訓練、敬老の日行事(祖父母への手紙を出す)、集会  
3歳未満児健診、お弁当の日
- 10月 運動会、木曜市の買い物学習（5歳児）、お芋ほり（4・5歳児）  
お芋ほりごっこ（0・1・2・3歳児）、焼き芋パーティー
- 11月 みかん狩り（3・4・5歳児）、お弁当の日、筆山山登り（3・4・5歳児）、  
全園児健診①②、家族の日プレゼント渡し、就学前健康診断
- 12月 生活発表会、劇団飛行船を観に行く（5歳児）、クリスマス会
- R4/1月 初詣、凧あげ、おもちつき、お正月あそび、歯科検診  
オーテピアみらい科学館へ行く（5歳児）、小学校一日入学（5歳児）
- 2月 節分豆まき、3歳未満児健診、お店やごっこ、お弁当の日
- 3月 通報総合避難訓練(火災)、お別れ遠足(筆山)職員と行く  
お弁当の日、新入園児保護者説明会、おわかれパーティー、卒園式

※1月26日～2月1日

新型コロナウイルス感染症のため休園

- その他 ◆ 毎月 誕生会、避難訓練、身体測定（0歳児）を行っています。  
◆ 隔月 身体測定（1～5歳児）  
◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。

開園以来73年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎令和3年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

**(1) 一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障**

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

**(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援保育、家庭支援等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供**

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 特別支援保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。
- ④ 家庭支援では、衣服や寝具の洗濯や登園、降園時の補助を行ったり、常に声をかける、手紙を書く等、保護者が相談しやすい環境を作る努力を行った。

**(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施**

- ① 園庭開放は、年間4名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童との交流は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止としたが、日常の保育の中では豊かな生活体験を始め保育内容の充実を図る為、一人ひとり十分な間隔、距離を保ちながら異年齢児と関われる様環境設定を行った。
- ③ 毎年、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちを育むことを目的として世代間交流事業を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止とした。その代わりに自身の祖父母に日頃の感謝の気持ちを込めて、手作りのプレゼントを渡した。これまで参加していた地域のイベントは殆どが中止となった。

**(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援**

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り又、子ども家庭支援センターとも協働・連携した取り組みを行った。

#### (5) 保育士の資質向上と保育水準の向上

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。

#### (6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

#### (7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

#### (8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関と連携

- ① 地域の中学校との合同訓練は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止となったが、定期的に自園の津波避難訓練計画に基づいた火災や地震津波避難訓練を実施した。また、高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練をした。それぞれの機関より評価をいただき、その結果を次の訓練に活かすようにしている。
- ② 防災備蓄物品については、避難場所である三里中学校に協力をいただき、毎年、点検や補充を行っている。令和3年度で、水、食料品の2日分（園児及び職員人数分）とオムツ、マスク、簡易トイレなどが備蓄できている。
- ③ 不審者対策として、各学期毎に様々な想定をふまえた不審者訓練を実施した。
- ④ 南海トラフ地震に備えたマニュアルの見直し研修会に参加し、自園のマニュアルの見直しを行った。

#### (9) 健康の取り組み

- ① 4、5歳児を対象として、週5回、フッ化物洗口液でうがいを行った。
- ② 園児が「痙攣を起こしたらどうするか」をシミュレーションし園内研修で振り返りを行うことにより対応について理解を深めた。園の看護師指導のもと、乳幼児の心肺蘇生人形とAEDトレーナーを使用し、園内研修で実技研修を行った。
- ③ 3～5歳児を対象に歯ブラシ指導を行った。  
感染予防対策として、各クラスの園児を対象に、園の看護師による健康教育「てあらい」「ウィルスのはなし」の指導。又、誕生日会で「うんちのおはなし」と題し実技指導を行った。

- ④ 熱中症対策として、毎日熱中症指数を掲示し職員への注意を促した。
- ⑤ 新型コロナウイルスが猛威を振るい、休園を余儀なくされた。その度に職員会を開き園の看護師のもと、コロナ感染拡大予防の基本、と題し対応の目安に応じた取り組みを各職員が周知し、実践した。

**(10) 食育の取り組み**

- ① 毎月 19 日の「食育の日」を職員に意識させ、食に関する絵本を読み聞かせる等園児に興味を持たせる様にした。
- ② 幼児組を対象に、クッキング保育や年 3 回の食育集会、年長児に向けて「だし」の味比べをして和食の大切さを知らせた。
- ③ 保護者に向けて食育だより・給食だよりの配布、行事食についての提示、子どもの好む給食やおやつレシピの配布等を行い、関心を持たせた。

**(11) ICT 業務効率化事業導入**

- ① R3 年度 2 月よりテスト運用を行った。登降園時にはタブレットと視認と二重にチェックをする事で子どもの人数把握を確実にする事が出来た。又、コロナで休園になった際には、詳細をメールで知らせ、保護者にその時々の状況をいち早く知らせる事が出来た。

◆ 組織の状況

令和 4 年 3 月 3 1 日現在

定員	90名
職員数	19名（正職8名、臨職5名、パート6名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童36名残り児童60名

※嘱託医内訳（歯科医1名・内科医1名）

◆ 在籍児童数

令和 4 年 3 月 3 1 日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	8	12	11	14	15	11	71

◆ 年度別：月平均在籍児童数

年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
3歳児以上	55名	46名	46名	39名	40名
3歳児未満	30名	38名	40名	38名	31名
計	85名	84名	86名	77名	71名

◆令和3年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	68	71	71	71	72	68	70	70	70	70	71	71
入所	0	3	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0
退所	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・10名
- 給食関係研修・・・・・・・・5名
- 保育士研修・・・・・・・・19名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・7名(特別支援保育研修会・発達支援、リズム&ダンス研修・人権研修他)
- 防災研修・・・・・・・・・・4名
- 保健関係研修・・・・・・・・7名

◆令和3年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、火災避難訓練、幼児組懇談会
- 5月 家族の日、交通安全教室(幼児組)、地震津波避難訓練、乳児組懇談会兼参観日
- 6月 歯科検診、火災避難訓練、尿検査(4・5歳児)
- 7月 プール開き、七夕笹飾り、地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)不審者訓練
- 8月 火災避難訓練
- 9月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、不審者訓練
- 10月 運動会、内科健診、火災避難訓練、
- 11月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、記念写真、年長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断、秋まつり、実習生受け入れ
- 12月 もちつき、お店屋さんごっこ、クリスマス会、通報火災避難訓練
- 4年/1月 乳児組懇談会、通報火災避難訓練
- 2月 豆まき、生活発表会ビデオ撮影、幼児組懇談会、火災避難訓練
- 3月 卒園式、新入児保護者会、不審者訓練、火災避難訓練
- その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。  
◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。